

戦後、日本は目覚ましい発展を遂げ経済大国になり、国民の多くは世界が羨む豊かさを享受している。今日までの成長を支えた重要な要因の一つが日本の教育であった。しかしながら、経済成長に多大な貢献をした教育において、何か大切なものが置き去りにされていないだろうか。

シェイクスピアの言葉にもあるように「人生は選択の連続」であり、私たちはその選択を自らの価値観に基づいて行っている。

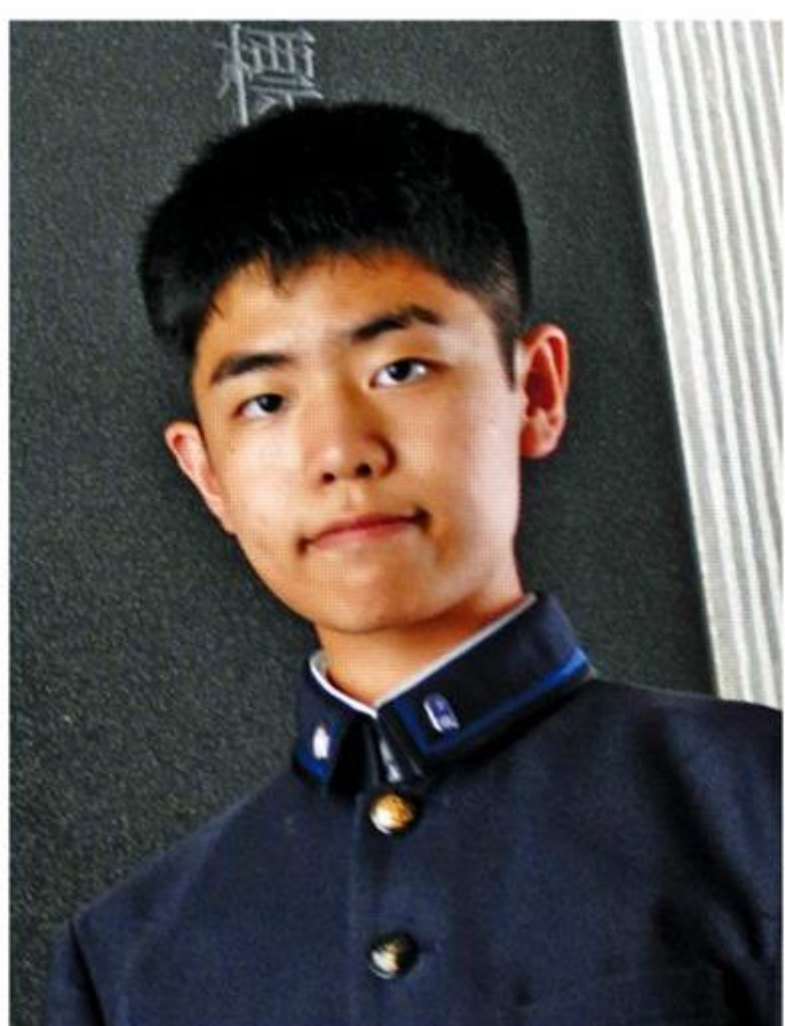
では、その価値観とは何によって決まるのだろうか。人生において見たこと、聞いたこと、感じたことの全てが、その人の価値観の形成に影響を与えていると言えるだろう。であれば、とりわけ家庭

# 発展の中で置き去りにされたもの

や学校で意識的に行われる教育は、若い世代の価値観を大きく左右する。感受性に富む時期にどのような教育が施されるかが未来社会を方向づけ、一国の将来を規定するとも言えるだろう。

かつて、福沢諭吉は『学問のすゝめ』で儒学や国学など伝統的な学問を虚学とし、物理や経済学など実生活に役立つ実学の修得の必要性を説いたが、福沢の生きた時代には、まさに虚学が扱ってきた価値観が生きていた。武士道が語

## 論 清



NIE研 中学副部長 徐 太介

られ、修身が教えられた。教師は師範と呼ばれ、言葉通り模範としての生き方が求められた。

翻って現在の日本はどうだろうか。教師は徳を備え、生徒の模範となるべく修養しているだろう

か。現実には、このような問題意識がなくても、採用試験にさえ通れば、先生になることができる。

この教育界の現状が、学力はあるが道徳心は欠如している人を生んでいるのではないか。高学歴の秀才たちが犯したあの傷ましいオウム事件は、道徳心が備わってこそ知識は正しい道に使われる事を教えてくれたのではないだろうか。

歴史に問えば、明治維新を担った人材の多くは教養を備え、道徳を重んじた人たちだった。

さて、教師に必要な素養とは何であろうか。これは様々な議論があって良いと思う。例えば、常識や見識のあることや、親への感謝を忘れないなどが思い浮かぶ。今、必要なのは、このような素

養のある教師による道徳教育である。と言っても、教科によるものだけではない。子供は先生の行動を真によく観察し、心の動きさえも感じている。それらを踏まえ、生徒に影響を持つ教師の生き方を高めることさえをも含めて必要な道徳教育である。

このような教育が実現した暁には、国民の意識が変わり、諸々の社会問題は解決に向けて異様な進展を見せるだろう。そのような問題解決は、課題が山積する世界において先駆的な役割を果たすようになるかもしれない。

「徳育の国、日本」、そんな素晴らしい国家になることを私は切に願っている。  
(じょう たいすけ)